

特別展 御殿山

期間	前期：令和7年10月11日（土）～12月7日（日）50日間 後期：令和8年1月17日（土）～3月8日（日）44日間				
会場	特別展示室				
有料観覧者 （前期）	一般1,817	小中63	一般団体132	小中団体15	有料計2,027
無料観覧者 （前期）	区関係4	区内小中424	招待187	高齢者991	無料計1,606
有料観覧者 （後期）	一般1,885	小中81	一般団体0	小中団体0	有料計1,966
無料観覧者 （後期）	区関係3	区内小中854	招待221	高齢者1,230	無料計2,308
					総計7,907

〔開催趣旨〕

品川区北品川に位置する御殿山は、縄文海進により深く入り込んだ入江の北、武蔵野台地の先端の一部に位置しており、江戸時代には御殿山といえば品川の御殿山というほど、一般庶民に知れ渡ったエリアであった。現在はそのネームバリューを活かしたまちづくりが進められ、高層住宅やオフィスが並ぶエリアとなっている。

また御殿山は、古代から現代まで特徴的な歴史を有する。古くは縄文時代の土器、古墳時代の住居跡や多数の遺物が見つかり、古来より集落が営まれていたことが判明している。中世においては、多数の板碑や石塔が御殿山の斜面に立ち並び、太平洋海運の拠点として栄えた品川の港町を見下ろす信仰の場であった。近世には、江戸幕府三代将軍家光が品川御殿と東海寺を創建し、南方に睨みを利かせる江戸城の防衛線としての歴史を刻みつつ、鷹狩を好んだ八代将軍徳川吉宗により園地開放がなされ、やがて花見で賑わう行楽地として有名になっていく。そして幕末に品川御台場築造の土取場や外国公使館の建設、明治に政財界の要人の邸宅が建設されるなど、新時代の要所として絶えず変化していった。

本展では、前期と後期の2部構成で御殿山の歴史を通史で捉え、紹介した。



〔展示概要〕

<前期>

プロローグ 御殿山とは？

第1章 御殿山のはじまり

第2章 港と霊場

第3章 江戸城防衛の要衝

第4章 将軍の鷹狩

<後期>

プロローグ 御殿山とは？

第1章 江戸の名所へ

第2章 諸外国との交渉の中で

第3章 開かれる御殿山

エピローグ 高層住宅とオフィスが並ぶまちへ

〔記念イベント〕

イベント名	日時	講師	会場	参加人数
記念講演会	①11月9日(日) 「考古学からみた御殿山 ～御殿山遺跡と中世石塔群～」	本間 岳人 (立正大学准教授)	講堂	①65名 ②67名 延べ132名
	②2月14日(土) 「近代の御殿山」	金子 千秋 (当館学芸員)		
記念茶会	11月3日(月・祝) 10:00～16:00(全5回)	協力:品川区華道茶道文化 協会	書院	95名
学芸員による 展示解説	①10月25日(土) ②12月6日(土) ③1月31日(土) ④3月8日(日) 時間はいずれも14:00～15:00	金子 千秋 (当館学芸員)	講堂	①23名 ②47名 ③57名 ④41名 延べ168名